

# 帆布の持つ可能性を、一つひとつ、形にしていく。

佐藤 拓

( 第一織布 係長 / 保全 (織機保全) )



学生時代に地元(関東)で見学した機屋の職人さんに憧れたことがきっかけで、工業的な織物に興味を持ち、何かしら繊維に関わる仕事に就きたいと思うようになったという佐藤さん。「元々は美術系の学校で染織を学び、織機の構造はわかっていました。岡山の繊維産業に興味があったことから、シャトル織機のある現在の会社を見つけて就職しました。」

入社直後は、まず機織り(オペレーション)を担当し、基礎的なことを覚えたそうです。現在担当している業務内容は、織物の機掛け(織機の準備セッティング)、織機故障時の修理・調整。修理の際は部品の調整が難しく、苦労しているそうですが、機械ならではの面白さも感じるそうです。「機械も古く、メンテナンスも大変ですが、そこで作られる帆布は、たくさんの魅力や可能性を秘めています。今後は、その新しい可能性を一つひとつ形にしていき、世の中になかった新しい織物を作りたいと思っています。」



## もっと生の声

### Q & A

#### — 心掛けていることはありますか？

常に同じように、きれいに、規格通りに織ることで、「こだわることにこだわらない」ことを心掛けています。例えば、織りの幅は湿度や気温によって変動しますので、経験や勘によって調整し、すべてのお客様に同じ商品が届けられるように気を配っています。職人の技の見せ所ですね。

#### — 嬉しかったことを教えてください。

苦労して織った製品を使ってくださるお客様とコミュニケーションが取れた時には喜びを感じます。たまたま入ったお店などで、思いがけず自分が織った生地を見つけて、そのお店の方とお話できたことは思い出に残っています。

#### — どのような人と一緒に働きたいですか？

繊維のことに少しでも興味があればぜひこの業界に入ってほしいと思います。身近なものなのに歴史があり、とても奥深いです。伝統を受け継ぎながら、新しい可能性を探しに一緒に頑張りたいです。